

令和6年度 自己評価結果

1. 活動内容（本年度目標）

- ① 自己点検・評価の手法の見直しを通じ、評価に繋げることができる
- ② Google Classroom の活用をはじめとする学内業務の ICT 化を進め、評価に繋げることができる
- ③ ハラスメント対策及び学内の危機管理体制の見直しを通じ、評価に繋げることができる

2. 結果



令和6年度 幸手看護専門学校 自己点検・評価

【項目ごとの自己点検評価・意見】

項目	自己点検・評価
I 教育理念・教育目的	学校の教育理念や目的を教職員が共有して教育活動が実施できている一方、他校より秀でている特色がなく学生募集に苦労している現状であるとする。今後においては、そういう特色のある教育理念・目的を設定していき、学生募集活動に繋がられるよう努めていきたい。
II 教育目標	教育理念や目的に沿って、実現可能である教育目標が設定できおり、それに向かった教育活動が展開できているものとする。今後も引き続き、設定した教育目標の達成を目指して教育活動を展開していきたい。
III 教育運営課程	各々の学科において法令等に従い、堅実な教育活動が実施できている。更に、第一学科・第二学科合同の国試対策の実施など、学科の垣根を越えた教育活動が展開できる雰囲気が醸成されつつある。今後も学校全体として更に良い教育活動が展開できるよう努めていきたい。
IV 教授・学習・教育課程	各々の学科において法令や内規に従い、学生が確実に知識を身に付けたことを見極め、正当に評価することができていることが評価に繋がったものとする。今後は中途退学や留年者を少なくすべく、教授方法や学生サポートの改善に更に努めていきたい。
V 経営・管理課程	経営上の問題点を教職員各々が共有できおり、それを解決すべく創意工夫を凝らして教育活動を展開しようとする素地ができつつあるところより、前年度と比べて良い評価に繋がっている。今後は更に省資源化に繋がる教育活動を展開していきたい。
VI 入学	入学者数の定員充足はしていないものの、学校説明会における学生からの説明の実施や学校広報における SNS の活用など、学生募集における新たな施策を展開した結果、前年度より良い評価に繋がった。今後も継続して学校の良い教育活動の広報に努め、定員充足を目指していきたい。
VII 卒業・就職・進学	対面での就職支援会の開催、求人情報の談話室への整理・提示など、学生に分かりやすい形での情報提供を展開した結果、前年度より良い評価に繋がった。今後は学校を挙げてのキャリア教育の実施、個々の状況に応じた就職支援などにも積極的に取り組んでいきたい。
VIII 地域社会・国際交流	香日向地区との地域交流会、長倉小2年生のまち探検、学生による通学路の清掃作業などを通じて地域貢献に努めている反面、その広報が十分ではなかったこと、国際交流に関して全ての学科において教育を組み込むことができていることがあり、低い評価となっている。今後は地域の方々も気軽に参加できる事業の実施、国際的視野を養うことのできる授業展開を通じて教育活動の改善に努めていきたい。
IX 研究	教科「看護研究」などの対学生への取り組みなど、良い取り組みがある反面、時間が確保できないために学校が導入した自己研修システム（NEO）が活用されない、教職員自身の研究や自己研鑽が行えていない現状である。今後は定期的な研修体制の整備等を通じて、学校を挙げてその改善に努めていきたい。

令和6年度 幸手看護専門学校 学校関係者評価

【項目ごとの評価・意見】

項目	学校関係者評価
I 教育理念・教育目的	自己評価について支持する。 カリキュラムの消化と国試対策の強化ばかりが重要視され、人間性教育が十分に行えていない状況下にあるため、その辺りを強化することで学校の特色を出していけると評価結果が高まると思います。
II 教育目標	自己評価について支持する。 今後も引き続き、教育目標の達成に向かって活動を継続されるよう期待します。
III 教育運営課程	自己評価について支持する。 今後、更に学科間連携を図ることで効率良い教育活動を展開していくことによって、評価結果もより高まると思います。
IV 教授・学習・教育課程	自己評価について支持する。 学生自身の評価と教員による評価とのズレを少なくし、教員一人ひとりが看護職特有の決めつけなどに拠ることのない教育を行っていくことによって、評価結果も更に高まると思います。
V 経営・管理課程	自己評価について概ね支持する。 退学者の増加は納付金収入の減少にも繋がり、経営的に望ましい状況ではないため、全教職員が意識的に退学者を出さない教育活動を実践していくことで経営改善に繋げることができるよう期待します。
VI 入学	自己評価について概ね支持する。 学生が入学するまでのプロセスよりも入学後のケアをしっかりと行っていくことにより、更に評価結果を高めてくれるよう期待します。
VII 卒業・就職・進学	自己評価について支持する。 学校が一丸となって、学生一人ひとりが希望するキャリアを積むことのできる教育活動を行っていくことにより、更に評価結果が高まると思います。
VIII 地域社会・国際交流	自己評価について概ね支持する。 香日向地区のみではなく、市内の他地域での交流事業への参画、長倉小学校で行われている授業に本校の教職員や学生が指導者として参画するなど、もっと積極的に地域との関わりを築いていただくことを期待します。
IX 研究	自己評価について支持する。 業務時間外でも自己研鑽に取り組む、業務時間内に自己研鑽を行っていくことは、若手教職員にとっては難しいことではあるが、先達が率先して実践する姿勢を見せることで意識改革していくことで、徐々に評価結果を高めてくれるよう期待します。